

令和6年度学校自己評価システムシート（県立越谷総合技術高等学校）

目指す学校像	チームで働く力を身につけた人間性豊かな産業人材を育成する学校
--------	--------------------------------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 主体的に学ぶ姿勢を育て、生徒一人一人の学力を向上させる。 越総生としての自信と誇りを持たせ、豊かな人間性を育てる。 キャリア教育の充実により、生徒の個性や可能性を伸ばし、主体的な進路実現を支援する。 本校の教育力を地域で発揮し、地域社会との連携・協働により学校の魅力化を進める。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	8名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 4 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	次年度への課題と改善策
1	学校全体で ICT 活用教育に積極的に取り組んでいる。学習評価:評価の場面や方法を工夫し、個別最適化された学びを充実させるための取り組みが進められている。 ICT を活用した授業の質を向上させること。評価の場面や方法のさらなる工夫が必要である。授業力の共有と継承の仕組みをさらに充実させる。	○指導と評価の一体化により学校全体の授業力を高める。	①教科会毎に、評価規準を明確化し、生徒の学びの実態をよりの確に捉えるよう見直す。 ②学習目標達成のために、効果的な指導方法や評価方法を検討し、カリキュラムを設計する。	①②教科毎のカリキュラムマネジメントの実施(各学期1回以上)、観点別評価に関する総括の実施(教育課程委員会12月) ①②授業満足度80%以上(授業・学習に関するアンケート)	①教科会を中心に観点別学習状況の評価の共通理解を改めて確認しあい指導と評価の一体化を進めた。学期ごとの教科の成績打ち合わせに合わせて確認があった。授業公開週間を11月実施し、お互いの授業見学を行った。 ②授業満足度は、1年95%、2年94%、3年93%であり、学年が進むにつれ満足度が下がっている。	A
		○ICTを活用した学習習慣を定着させる。	①ICT教材開発及びICT指導方法の研究に取組み個別最適化と協働的学びを進める。 ②タブレット端末等のICTを活用した自主学習を推進する。 ③朝学習等において学習アプリの活用し、生徒の家庭学習をサポートする。	①ICTの授業にどれくらい取り組んだか ②「到達度テスト」結果に基づく課題配信(月1回以上) ③タブレット端末等を活用した宿題や課題の指示の増加(前年比)	①ICTの活用授業満足度は、1年93%、2年75%、3年87%であり、全体で昨年80.3%から今年85.0%へと上がっている。 ②③課題配信については、昨年より増加傾向にある。教科の特性や教員により差はあるものの課題配信・課題指示も昨年より増加傾向にある。	B
2	礼儀正しさ:多くの生徒は礼儀正しく、校内生活は秩序ある様子が見られる。一方で、挨拶を欠かしたり、マナーを守らなかったりなど、礼儀がなっていない生徒も存在する。 部活動参加率:近年、部活動参加率が低下傾向にある。学習面や進路面への不安、部活動の負担感などが主な理由として挙げられる。 安心・安全な学校生活を保障する。生徒の悩み:不登校、人間関係のトラブルなど、学校生活に悩みを抱える生徒が増加している。	○越総生としての自覚と誇りを育み、礼儀正しい態度を徹底させる。	①挨拶運動や身だしなみ指導により、規範意識を醸成する。 ②部活動の日の徹底し、部活動参加率を向上させる。また、部員数の少ない部活動の再編・統合などを考える。 ③実践的・体験的な人権教育を推進し、人権感覚を磨く。	①挨拶運動の実施(学期1回)、身だしなみ指導(年5回以上) ②部活動の日の徹底(月、金)、部活動参加率の向上(前年比) ③部活動の再編を含む組織編成に着手できたか ④人権感覚育成プログラムの実施	①挨拶運動を各学期1回実施、身だしなみ指導年5回実施した。 ②部活動参加率81.3%⇒83.1% ③部活動の再編・組織編成は、分掌調整委員会にて3月実施予定のため未定。 ④人権感覚育成プログラム7月に実施し、3月実施予定。	B
		○安心・安全な学校生活を保障する。	①ネットトラブル防止講演会を継続実施し、ネットトラブルを未然に防止する。 ②校外交通安全指導を実施する。 ③教育相談を定期的に実施する。 ④関連機関と連携した支援をおこなう。 ⑤いじめを未然に防止する。 ⑥大規模改修工事を安全に進行させる。	①ネットトラブルによる生徒指導件数の減少 ②校外交通安全指導(毎日) ③教育相談の定期実施(月1回以上) ④ケース会議の実施(随時) ⑤いじめアンケートの実施(学期毎) ⑥工事を安全に進行・完了できたか	①ネットトラブルによる生徒指導件数の減少 ②校外交通安全指導(毎日)実施した。 ③教育相談を定期的に実施した。 ④ケース会議・市町村との連携を行った。 ⑤いじめアンケートを実施した。(学期毎) ⑥工事を安全に進行・完了できた。	B
3	ここ数年、内定率100%の高水準を維持しており、生徒の就職活動を強力にサポートしている。 ミスマッチ防止:希望に沿わない就職を防ぐため、キャリア教育をさらに充実させる必要がある。 新規企業開拓:生徒の希望に合致する企業との連携を強化し、就職先の選択肢を広げる必要がある。 進学希望者増加:近年、進学希望者が増加しており、生徒の進路選択の多様化に対応する必要がある。	○キャリア教育を充実させる。	①企業との連携強化:就職ガイダンスや企業実習など、生徒と企業の接点を増やす機会を創出する。 ②生徒個々における目的の明確化:自分の将来を考え、生徒自ら到達点(目的)を明確にできるようにする。	①キャリアパスポートの引継ぎと様式の更新活用機会の増加(進路行事毎) ②講演会・セミナーの実施(各学年5回以上) ③卒業生による進路講演会の実施	①キャリアパスポートの引継ぎと様式の更新及び活用機会の増加を行った。 ②講演会・セミナーを5回以上実施した。 ③卒業生による進路講演会を実施した。	B
		○系統的・組織的な進路指導体制を確立させる。	①進路指導担当教員の専門性を高め、個々の生徒に寄り添った指導を行う。 ②進学希望者向けの補習授業を充実させ、学習面でのサポートを強化する。 ③自習できるよう、生徒が集中して学習できる環境を整える。	①進路指導満足度(進学・就職それぞれ80%以上達成できたか) ②進学希望者用自習室の運用規程・補習案内の作成ができたか。 ⑦就職内定率100%の維持	①進路指導満足度(進学93.9%・就職94.7%達成) ②進学希望者用自習室の補習案内はできたが、規定作成までは至らなかった。 ③就職内定率100%を達成。	A
4	～生徒の活躍をもっと輝かせ、専門性を活かした魅力を発信!地域と連携した開かれた教育へ～ 一部の職員だけでなく、全職員で情報発信できるようにする。 生徒の活躍をタイムリーにキャッチ!さまざまな場面で輝く生徒の姿を多くの人に届けられるようにする。 魅力的なホームページで生徒パワーをアピール! 専門性を活かした魅力を発信!専門学習で培った知識や技術を活かしたイベントを開催し、専門高校の魅力を広く発信する。	○生徒の活躍をもっと輝かせ専門性を活かしたHPを発信させる。	①中学2年生までを対象とした出前授業や体験入学、地域連携事業を実施する。 ②生徒の活躍をもっと伝わるホームページにする。 ③写真や動画を活用し、生徒の躍動感あふれる姿をダイナミックに表現する。	①説明会毎のテーマ設定を工夫できたか。(学校説明会参加者数の増加:前年比) ②出前授業の依頼数、中学生を対象とした体験入学の参加者数の増加 ③全学科のページをリニューアルできたか。 ④ホームページ閲覧数の増加(前年比) ⑤SNSによる情報発信ができたか。	①昨年同様のテーマを設定して取り組んだ。 ②出前授業計16回、上級学校訪問2回、PTA見学会3回実施した。体験入学は1回学校説明会、昨年5回実施今年3回実施で参加者数は132%の増加、進学フェアは、134%の増加。 ③全学科のページをリニューアルできた。 ④ホームページ閲覧数の増加及び更新数増加 ⑤インスタによる情報発信ができた。	B
		○地域と連携した開かれた教育を実現する。	①地域企業や大学との連携イベントも積極的に企画し専門高校の魅力を広く発信する。 ②未来の職業人材育成事業を活用し、地域と連携した研究や商品開発を行うとともに、外部講師を積極的に招聘する。	①地域事業やイベント等への参加数の増加(前年比) ②地域社会の人材を活用した学びの機会と外部講師による講演会・講習会や課題研究等での指導講評の機会を増やすことができた。	①地域事業やイベント等へ引き続きと新規事業にも積極的に参加した。 ②地域社会の人材を活用した学びの機会と外部講師による講演会・講習会や課題研究等での指導講評の機会を増やすことができた。	A

学校関係者評価	実施日 令和7年2月7日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>タブレット端末の貸与制度について、高校での導入の可能性について質問があった。使用頻度を考慮すると、県が主体となり貸与する方式が望ましいとの意見があった。 授業満足度は目標を大きく上回る90%半ばと高く、先生方の生徒に寄り添った教育実践が評価された。生徒たちの満足度を高める熱心な取り組みが称賛され評価項目1の上段をAで良いのではという意見があった。 予習実施率の低さが懸念され、社会に必要な準備作業との関連から、予習の目的や意義を生徒に伝えることで実施率向上の可能性が示唆された。</p> <p>本校生徒の礼儀正しさと身だしなみについて、外部から高い評価があると意見があった。外部からの評価維持のため、厳しい指導継続の要望があった。 ネットトラブルの指導件数減少を評価いただいたが、SNSでの誹謗中傷による深刻な影響を懸念され、早期発見と改善の重要性を指摘された。学校側の積極的な取り組みを評価しつつ、継続的な対策を期待する旨が述べられた。 学食で働いている方からの情報として、本校生徒の挨拶が他の高校に比べて非常に優れているというお褒めの言葉をいただいた。</p> <p>就職内定率100%を高く評価いただいた。一方で越谷市内の中小企業の人手不足が深刻である現状に触れ、優良な中小企業と生徒のマッチング支援の必要性が示唆された。商工会議所としても協力できる旨が伝えられ、今後の連携に期待が寄せられた。</p> <p>SNS情報発信の事後報告が多い現状に改善要望があった。保護者から事前告知を希望する声があり、ホームページ等での対応を検討してほしいとの意見があった。</p> <p>評議員である工業大学からは、現在の課題研究の高大連携を引き続き継続の要望もあり、今後も引き続き研究を進めていく。</p>